

私からはじめるまちづくり ～チャレンジユニバーシティ三原～ 開催

Aグループ

「目で見て口で肌で感じてみんなが来たいと思える場所に」をテーマにキオラスクエアの持続的な活用が出来る四季折々のイベントを考えました。春は絵馬で合格祈願やフラワーロード、昔の遊び講座。夏は広場に竹を立て七夕に短冊を書いたり、ミストシャワーを設置し子どもにも楽しんでもらいます。秋はハロウィンの仮装大会。冬はイルミネーションを行うことでインスタ映えスポットにするなど多くの人に楽しんでもらえたいと思います。また、年間を通じて図書館の全面ガラス張りを活かしたプロジェクションマッピングやお絵描きボードを設置する、集客力を高めるため屋台や物産展などを考えました。

Bグループ

休日や学校、仕事の帰りに息抜きをしてもらいたいと思い「Enjoy Refresh」をテーマにしました。広場ではワゴンカーで八天堂のクリームパンを販売、フルーツなどでデコレーションを行います。また、路上ステージを作ってダンスや歌、楽器の演奏、図書館では映画の上映、イルミネーションの設置。ホテルではVRを使ったお化け屋敷や脱出ゲーム、サババルゲームを考えました。このようなイベントを通じてキオラスクエアを訪れた三原市民一人ひとりが主役となりSNSで発信することで情報が広がり全世界の人々を巻き込むことで三原のまちがにぎやかになっていくと思います。

Cグループ

「楽しく三原を知ろう」を目的にイベントを考えました。図書館では三原にゆかりのあるものや地名についての問題を主としたスタンプラリー。に参加者だけでなく中高生もより三原の知るためにボランティアとして企画や問題を考えて、会場の整備を行い、参加する度にポイントが溜まるようにし、図書カードや映画無料券など様々な景品がもらえるようにすることでボランティアの参加を促します。サテラスでは親子で楽しめる編み物教室や絵の展示。また、コロナの影響で発表する機会がなくなってしまった学生のための演奏会を考えました。世代を超えて三原を楽しく盛り上げていきたいです。

Dグループ

テーマは「Progressing city of Mihara」(進化する三原)です。広場では勇気を促す出し人前に立つ経験をすることで成長を促すストリートライブ、持続可能な社会に向けて取り組む社会環境や人に優しいフリーマーケットや誰でも気軽に楽しめることのできる駅前を華やかにすることで三原市全体の印象が良くなるイルミネーション。サテラスでは工芸品を作るワークショップや地元の食材を使ったカフェ、演奏会を楽しめるレストラン。駐車場ではイヤホン付き音声機を使い騒音に考慮した屋外シアター。観たい作品、鑑賞後の感想をアンケートすることで世代が飽きずに楽しめると思います。

11月5日(日)三原市市民福祉会館にて、若者が自分たちの住み暮らすまちについて主体的に考え行動する機会を創出することでまちづくりへの関心を高めることを目的とした事業「私からはじめるまちづくり」チャレンジユニバーシティ」を開催しました。当日は三原市在住の26名の高校生に参加していただき、「キオラスクエアを活用したマイクロツーリズム」のテーマの元、にぎわい交流拠点であるキオラスクエアに市民や市外の人が訪れたくなるイベントを考え、発表していただきました。また、アドバイザリーボードメンバーに三原市中心市街地活性化協議会会長森光孝雅様、株式会社Kotoyo取締役小松愛香様、一般社団法人三原青年会議所勝村晋理事長、特別ゲストとして三原市長岡田吉弘様にお越しいただき、高校生が発表したイベントに対してアドバイスをいただきました。ここで、高校生が考えたイベントをご紹介します。

本事業の開催にあたり、ご参加いただきました高校生の皆様、生徒様をご輩出並びにご引率していただきました学校関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



～編集後記～
ご愛読ありがとうございました!!

本号(11月号)にて、2020年度の三原青年会議所新聞「やさもっさ」は最終号を迎えることとなりました。本誌発行にあたり、ご愛読いただきました読者の皆様、保護者の皆様、学校関係者の皆様、三原を元気にする企業の皆様、取材にご協力いただきました皆様、深く感謝申し上げます。本年は読者である若者の皆様に三原のまちやまちづくりに興味を持っていただきたく思い、発行してまいりました。本誌が皆様にとって少しでも三原のまちやまちづくりに興味を持つきっかけとなれば幸いです。今後とも本誌を通じて当会議所の活動や三原の魅力を発信してまいりますので、ご理解とご協力をいただきまます。一年間ありがとうございました。



みんなが描こう! ミライのMIHARA

2020.10.3